

2026年4月8日

各位

会社名 株式会社 F u s i c
代表者名 代表取締役社長 納富 貞嘉
(コード番号：5256 東証グロース・福証Q-Board)

Fusic、QPS 研究所へ人工衛星モニタリングダッシュボードを開発・納品し、
宇宙事業の収益成長を加速
～高度な開発力により宇宙領域におけるプロジェクト実績をさらに深耕～

株式会社 Fusic（本社：福岡県福岡市中央区、代表取締役社長：納富貞嘉）は、株式会社 QPS 研究所（本社：福岡県福岡市中央区、代表取締役社長 CEO：大西 俊輔、以下「QPS 研究所」）における「多数の衛星運用に伴う情報の分散と運用負荷の増大」という課題に対し、これらを統合管理する「人工衛星モニタリングダッシュボード」を開発・納品いたしました。

当社は、クラウドコンピューティングや AI 等の技術を活用し、今後さらなる成長が期待される宇宙産業関連ソフトウェア市場におけるプレゼンス向上を図っております。本件は、そうした当社の取り組みを加速させる重要な一歩であり、宇宙ソフトウェア領域において顧客の事業成長に不可欠なパートナーとしての地位を確固たるものとし、中長期的な収益基盤の拡大と企業価値の向上に寄与するものと考えております。



QPS 研究所について

QPS 研究所は九州発の宇宙開発企業で現在は小型 SAR 衛星を開発・製造・運用しています。同社は 2030 年に 36 機の衛星コンステレーションを構築し、世界中のほぼどこでも平均 10 分以内に観測、もしくは任意地点を平均 10 分間隔で観測可能とする準リアルタイム観測網を実現し、取得した SAR データを防災・減災やインフラ管理等の社会課題の解決に役立てることを目指しています。

プロジェクトの概要

QPS 研究所では、衛星ごとに確認すべき情報が複数のアプリケーションに分散していたため、運用手順の煩雑さや新メンバーの習熟コストが課題となっていました。これに対し当社は、複数の衛星の運用情報を統合的に確認できるモニタリングダッシュボードを開発しました。

本システムの導入により、主に以下の 3 点の特長を通じて、衛星運用の高度化と効率化を実現しています。

- ・ **1,000 超のパラメーターをリアルタイム高速描画**
膨大なテレメトリデータを遅延なく可視化し、衛星状態把握の即時性を向上
- ・ **大量データを効率的に蓄積するアーカイブ基盤**
蓄積されたテレメトリデータの素早い参照により、過去の運用実績の確認を容易化
- ・ **個体差や仕様変更を吸収する高拡張な表示設定**
衛星ごとの表示内容やパラメーターの単位・色付け・演算等をコンフィグで柔軟に設定できる、汎用性の高い運用基盤を構築

本プロジェクトの詳細については、当社ホームページに掲載しておりますのでご参照ください。

URL : <https://fusic.co.jp/works/70>

今後の見通し

本件による当社の 2026 年 6 月期の業績に与える影響は軽微と見込んでおりますが、今後開示すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

以上

本リリースに関するお問合せ先

株式会社 Fusic IR 担当

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 4-1-7 第3 明星ビル 6F

お問い合わせ：<https://fusic.co.jp/ir/other/contact>